

# グローバル社会における理学療法士の活躍に資する事例紹介

## TOKYO2020 オリンピック・パラリンピックをきっかけとした人財育成の取り組み

### ～国際ボート競技大会医事部活動に向け～

(公社) 埼玉県理学療法士会 国際スポーツ競技対策委員会

## 1. 事業概要

(公社) 埼玉県理学療法士会国際スポーツ競技対策委員会は、1年延期の2021年に開催されたTOKYO2020オリンピック・パラリンピックボート競技の医事部にて選手のサポート活動を実施した。

2017年に当委員会を立ち上げてから、国際的に活躍できる理学療法士の人財育成を図るため、スポーツ現場で即戦力として対応できる知識や技術の研修会、語学を用いたコミュニケーションスキルなど国際大会の舞台で外国人選手との関りを持つ上で必要な研修会を開催した。また、一定の水準を担保するための独自の技能検定を設け、事前に大会に参加できる人員の確保を実施した。このような事前準備に加え、2019年の国際ジュニアボート選手権大会や、東京2020アジアオセアニア大陸予選ボート競技大会の医事部活動等を経て、本大会への参加となった。

## 2. (公社) 埼玉県理学療法士会としての事前準備

### 1) 活動開始の経緯

東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催決定を一つのきっかけに、国際競技大会等で多くの理学療法士が活躍できるよう「スポーツ理学療法の質的な向上」を目指し、そのための人財育成や活動機会の獲得を図る為に、2017年に国際スポーツ競技対策委員会が設立された。

委員会メンバーの収集方法としては、委員長を中心として既に国内スポーツ大会でのサポート活動で実績のある、当士会事務局スポーツリハビリテーション推進部でメンバーの候補者を検討し、委員就任の依頼を行った。

活動開始時の委員(コアメンバー)は、10名(男性8名、女性2名)であった。2017年当時で経験年数10年目～27年目で、コアメンバーの特性としては当士会事務局スポーツリハビリテーション推進部でのサポート活動経験者や、日本スポーツ協会公認AT資格所有者、障がい者スポーツトレーナー所有者、プロスポーツや大学スポーツでのチーム帯同スタッフ経験者、国際スポーツ大会への帯同経験者(アジアパラゲーム仁川、ドバイ)、スポーツや徒手療法を得意としている海外経験を積んだ大学教授であった。

### 2) 研修会・技能検定の実施(開催実績は添付資料参照)

研修会は、リオオリンピック・パラリンピックでのスポーツ理学療法の役割を皮切りに、スポーツ現場における物理療法やテーピング、徒手的な評価や治療手技といった知識や技術だけでなく、ドーピング

についての基礎知識や暑熱対策、応急処置と救急搬送器具の仕様手順や、感染予防対策ガイドラインなどの研修会を実施した。

また、英語でのコミュニケーションについては、日本国内でクリニックを開業している外国人理学療法士を講師とした。講師依頼については、海外経験のある大学教授から講師の内諾を得て、(公社)埼玉県理学療法士会の事業として講師依頼をした(講師料は当士会規定に則り会員外の講師料としてお支払いした)。

問診・コミュニケーションの取り方についてのデモンストレーションをはじめ、英語での問診・コミュニケーションの取り方の基礎として使用頻度が高く簡単だと思われるフレーズを学んだ後に受講生同士でスピーキングができる機会や、応用編として講師が選手役となり問診から評価・治療のコミュニケーションの実践を繰り返す機会を、海外経験豊富な県内外の講師を招聘して研修会として設けた。

頻度としては年1回で、例えば2017年度は「徒手療法技術研修会と英語でのコミュニケーション」と題した一日研修を開催。午前は関節モビライゼーションを中心とした実技指導で、午後の180分枠で英語での問診・コミュニケーションの取り方を学んだ。当時はコロナ禍の前であり、埼玉県立大学を会場とした対面研修で参加者は62名あった。大会直前の2021年ではコロナ禍における感染対策としてZOOMでのオンライン開催ではあったが、27名の参加が得られた。

さらに、国際競技大会で活躍できる一定の知識や技術水準をもつ人材を確保するため、スポーツ現場における移送・搬送法・固定法(包帯・三角巾の2種類)、テーピング技術(足関節:基本のテーピング)やスポーツ現場での怪我を想定したシナリオテスト(整形外科的徒手検査の確認を含む)を内容とした技能検定を実施した。この検定合格者が国際大会等でのサポート活動に参画できる協力・参加メンバーとなり、現在合格者は46名となっている。

### 3. サポート活動内容

ボート競技の会場は海の森水上競技場(東京)であった。活動期間はオリンピック大会期間の2021年7月18日(日)~31日(土)の14日間と、パラリンピック大会期間の2021年8月22日(日)~30日(月)の9日間であった。参加者は全て前述の技能検定合格者24名で、1日(8時間シフト)あたり平均6~7名が活動した。

医事部活動は大きく分けて医務室での活動と、競技現場(Field of Play:以下 FOP)での活動であった。前者は選手が来室した場合、医師による診察を経て必要性があると判断された場合、理学療法士がテーピングやコンディショニングを実施するものであった。医師の診察は看護師が補助業務を行っているが、症例の記録やアイシング対応、ポジショニングなど理学療法士も一部補助を行った。後者は、ボート競技のゴールエリアにあるポンツーン(浮き桟橋)付近で、選手の疲労具合や熱中症などの体調変化に注視しながら声掛けや必要に応じてアイスタオルや水などを手渡したり、動けない選手がいると必要に応じて担架や車椅子などでの搬送を実施するものであった。

利用者の国籍はバヌアツ、ドイツ、イタリア、中国、ウルグアイ、日本、ルーマニア、イギリス、ベルギーと多岐に渡った。処置については労作性熱中症、疲労困憊における脱力、意識朦朧とする選手などの対応が多く、医務室での点滴やアイシング、FOPでの車椅子、バックボード・ストレッチャーによる搬送業務などが中心的であった。細かい選手とのやり取りは医師や通訳が行ったものの、理学療法士も声

掛けや対応時などは直接コミュニケーションが必要であり、参加者はスキルに応じてポケットークやスマートフォンアプリ（VoiceTra）などで補った。

## 4. 大会を終えて

### 1) 所感

医療機関におけるスポーツ理学療法をベースに、一次救命処置、搬送・応急処置（テーピング含む）などが求められ、いつでも実践できるよう改めて準備が必要であると感じた。一方、パラリンピックにおいては我々が日頃、臨床場面における日常生活動作などの車椅子移乗や補装具などの着脱など本来、医療機関、施設などで関わっている事自体が国際大会においても特別ではないということ実感した。

一方、語学でのコミュニケーションスキルについては、診療の手順（問診→評価→アプローチ）など、競技に特化したシナリオ形式として覚えておく必要性和、コミュニケーションを積極的に行うために場慣れする機会の必要性を感じた。

### 2) 埼玉県士理学療法士会員のメリット・デメリット

本活動に参加することによるメリットは国際スポーツ競技大会（トップアスリート）における理学療法サービスを経験できたという自信だけでなく、スポーツ理学療法分野だけでなく関係機関とのネットワークや信頼関係を得ることができ、今後新たに全国大会での参加など活動のすそ野が広がる結果となった。一方、本活動に参加することによるデメリットとして、休日の減少や仕事量の増加、それに見合う拘束時間に対する金銭面が乏しいなどの財政面での問題や、新型コロナウイルス感染症対策における職場との調整により参加者が限られてしまうなどのマンパワーの問題があった。

### 3) 今後の課題や方向性

マンパワーについては引き続き、大会参加者のスキルの標準化や技能検定合格者を確保するため、講習会や技能検定開催数の増大や、既参加者へのブラッシュアップ研修の開催を予定している。会員の国際化に向けては対応可能な競技の拡大とともに多くの人財の育成等、今後の検討課題となる。

活動財源は（公社）埼玉県士理学療法士会の事業として予算化し、研修会事業は研修会講師代、実技アシスタント代を確保している。サポート活動での日当もアシスタント費として確保し、その他交通費、昼食代なども予算から捻出している。今後も事業拡大等必要に応じ、予算請求をおこない事業実施を予定しているが、費用の増加（研修会費用とサポート活動合わせて約 200 万→280 万円）などの課題に対して、主催団体から一部提供してもらえよう働きかけの検討も必要である。

## 添付資料 活動実績

国際スポーツ競技対策委員会の事業構成は、1. 研修会（技術・語学研修会、スポーツ技能検定）、2. サポート活動となっている。事業の広報は士会 HP への掲載と、士会メールマガジンでの配信に加え、過去にスポーツサポート事業に参加した方で構成されたメーリングリストでの配信も加え広報を実施している。研修会の参加費は、埼玉県士会員は無料、他県士会員は 1,000 円、会員外は 5,000 円に設

定、サポート活動の参加者には交通費と日当 5,000 円のお支払いとしており、他県士会員の方も 2～3 名の参加がある。以下実績を記載する。

## 1. 研修会事業

### 【期間：2016 年】

事業名：国際スポーツ競技対策委員会 第 1 回研修会（2 月）

内容：「リオオリンピック・パラリンピックに対するスポーツ理学療法への役割」

会場：上尾中央医療専門学校 参加者：46 名

### 【期間：2017 年】

事業名①：国際スポーツ競技対策委員会 第 2 回研修会（6 月）

内容：「徒手療法技術研修会と英語でのコミュニケーション」

会場：埼玉県立大学 参加者：62 名

事業名②：国際スポーツ競技対策委員会 第 3 回研修会（11 月）

内容：「ドーピングについての基礎知識とスポーツ現場で役立つ応急処置の実践」

会場：埼玉医科大学かわごえクリニック 参加者：36 名

事業名③：国際スポーツ競技対策委員会 第 4 回研修会（2 月）

内容：「スポーツ現場における物理療法とテーピングテクニック」

会場：埼玉県立大学 参加者：31 名

### 【期間：2018 年】

事業名①：国際スポーツ競技対策委員会 第 5 回研修会（7 月）

内容：「スポーツ現場におけるシナリオ症例に対する評価と治療」

会場：埼玉県立大学 参加者：41 名

事業名②：国際スポーツ競技対策委員会 第 6 回研修会（9 月）

内容：「ドーピングについての基礎知識と障がい者スポーツと理学療法」

会場：上尾中央医療専門学校 参加者：17 名

事業名③：国際スポーツ競技対策委員会 第 7 回研修会（12 月）

内容：「スポーツ現場における物理療法と英語によるスポーツ現場でのコミュニケーション」

会場：埼玉県立大学 参加者：19 名

事業名④：第 1 回 スポーツ理学療法技能検定（5 月）

内容：「搬送・固定法、足関節基本テーピング、シナリオテストの実施」

会場：埼玉医科大学かわごえクリニック 参加者：23 名（内認定者 13 名）

事業名⑤：第 2 回 スポーツ理学療法技能検定（2 月）

内容：「搬送・固定法、足関節基本テーピング、シナリオテストの実施」

会場：埼玉県立大学 参加者：24 名（内認定者 7 名）

### 【期間：2019 年】

事業名①：国際スポーツ競技対策委員会 第 8 回研修会（7 月）

内容：「各競技種目におけるスポーツ傷害特性の理解と屋外スポーツ現場における対応」

会場：埼玉県立大学 参加者：30 名

事業名②：国際スポーツ競技対策委員会 第9回研修会（11月）

内容：「スポーツ現場を想定した Hand-on 評価と治療（英語でのコミュニケーションにて）」

会場：埼玉県立大学 参加者：36名

事業名③：国際スポーツ競技対策委員会 第10回研修会（1月）

内容：「スポーツ現場で求められる理学療法スキル・ブラッシュアップ」

会場：埼玉県立大学 参加者：29名

事業名④：第3回 スポーツ理学療法技能検定（6月）

内容：「搬送・固定法、足関節基本テーピング、シナリオテストの実施」

会場：埼玉県立大学 参加者：12名（内認定者 6名）

事業名⑤：第4回 スポーツ理学療法技能検定（2月）

内容：「搬送・固定法、足関節基本テーピング、シナリオテストの実施」

会場：埼玉医科大学かわごえクリニック 参加者：5名（内認定者 0名）

#### 【期間：2020年】

事業名：国際スポーツ競技対策委員会（1月）

内容：1）「日本パラ陸上競技選手権大会クラス分けとしての活動参加における感染予防対策」

2）「国際競技大会ボート競技大会における感染予防ガイドラインと具体的対策」

会場：WEB開催 参加者：24名

#### 【期間：2021年】

事業名①：国際競技対策委員会 第1回研修会（6月）

内容：「臨床上で英語でのコミュニケーションスキル（基礎編と応用編）」

会場：WEB開催 参加者：27名

事業名②：国際競技対策委員会 第2回研修会（7月）

内容：1）「スポーツ現場における暑熱対策と具体的対策について」

2）「応急処置と救急搬送器具の使用手順と紹介について」

会場：WEB開催 参加者：25名

事業名③：国際競技対策委員会 第3回研修会（12月）

内容：1）「東京2020オリンピック・パラリンピックボート競技医事部活動報告」

2）「国際競技大会における医事部活動の役割と理学療法士への期待」

3）「活動参加した理学位療法士における体験談と今後の活動について」

4）「活動参加前・参加後におけるアンケート調査結果報告」

会場：WEB開催 参加者：18名

## 2. サポート活動

#### 【期間：2017年】

① 第3回さいたま国際マラソン大会におけるランナーズケア活動（11月）

内容：「選手へのストレッチ・マッサージ・インソール調整・テーピング処置」

会場：さいたま新都心スーパーアリーナ 利用参加者：253名 スタッフ数13名

#### 【期間：2018年】

- ① 第4回さいたま国際マラソン大会におけるランナーズケア活動（12月）  
 内容：「選手へのストレッチ・マッサージ・インソール調整・テーピング処置」  
 会場：さいたま新都心スーパーアリーナ 利用参加者：229名 スタッフ数25名
- ② パラドリームアスリートプロジェクト医学的サポート（12月・2月）  
 内容：「パラアスリートに対してのコンディショニングの指導研修と実技」  
 会場：身体障害者交流センター 参加者：12月（12名）・2月（1名）

**【期間：2019年】**

- ① 第5回さいたま国際マラソン大会におけるランナーズケア活動（12月）  
 内容：「選手へのストレッチ・マッサージ・インソール調整・テーピング処置」  
 会場：さいたま新都心スーパーアリーナ 利用参加者：356名 スタッフ数35名
- ② パラドリームアスリートプロジェクト医学的サポート（1月・2月）  
 内容：「パラアスリートに対してのコンディショニングの指導研修と実技」  
 会場：身体障害者交流センター 参加者：1月（14名）・2月（8名）
- ③ 2019世界ボートジュニア選手権 医事部理学療法サービス活動（7月）  
 内容：「大会参加選手における理学療法サービスの実施」  
 会場：海の森水上 参加者：23名

**【期間：2021年】**

- ① 東京2020アジアオセアニア大陸予選ボート競技大会 医事部理学療法サービス活動（5月）  
 内容：「大会参加選手における理学療法サービスの実施」  
 会場：海の森海水競技場（東京都） 参加者：26名
- ② 東京2020オリンピック・パラリンピックボート競技 医事部理学療法サービス活動（7～8月）  
 内容：「大会参加選手における理学療法サービスの実施」  
 会場：海の森水上競技場（東京都） 参加者：24名

**大会参加者アンケート**

**【本活動に参加してきたことの現状の満足】**

1：すごく不満足9%、2：少し不満足9%、3：どちらでもない0%、4：少し満足27%、5：すごく満足55%

**【本活動に参加したことによって国際競技大会で理学療法サービスを提供する自信は変化したか】**

1：大きく自信喪失した0%、2：少し自信喪失した9%、3：変わらない0%、4：自身が少し増えた73%、5：自身が大きく増えた18%

**【本活動に参加することでスポーツ競技・選手に理学療法士として関わる機会が今後増えるか】**

1：大きく減る0%、2：少し減る0%、3：変わらない36%、4：少し増えそう46%、5：大きく増えそう18%